

化粧品素材の新戦略推進

αーリポ酸・レチノール・C₀Q₁₀

γーCD応用し混合製剤

シクロケム

シクロケムは、化粧品素材レジジネスの新たな戦略に乗り出す。γシクロデキストリン(CD)の機能を応用し、αーリポ酸、レチノール、コエンザイムQ₁₀(C₀Q₁₀)の3成分をそれぞれ包接した混合製剤の開発に成功。美肌に導くキー成分として化粧品に多用されている3成分だが、γCDに包接すると、従来の10分の1程度の配合量で十分な浸透力や安定性を示す機能が付与されることを確認できた。エビデンスを踏まえ、技術提携を軸に化粧品メーカーへのアプローチを図り、美肌素材としての市場確保を目指す。

今回、シクロケムが乗り出すのは、市販されている化粧品を上回る機能性に富んだ素材開発を進め、その成果をレジジネスに結びつける取り組み。これまでγCDに有用成分を包接した素材を開発し、化粧品やサプリメントメーカーへ供給した多くの実績がある。美肌

やシワの改善などに作用するこれら3成分は、いずれも化粧品素材としての需要が多い。γCDの機能を用いて改良したのは、レチノールの安定性、C₀Q₁₀の吸収性、αーリポ酸の吸収安定性。3つの素材の製造法と効果的に組み合わせる調査の基盤技術

を構築した。レチノールはオープンな状態だと不安定で壊れてしまうが、γCDで包接すると安定化し肌に届くことを確認。C₀Q₁₀はシワ改善に有用なことが研究報告されているが、高濃度の使用量が必要となる。γCDにグリチルリチンを

組み合わせると、肌への取り込み量が増加することがわかった。表皮細胞を用いた実験では、市販品の10分の1の量にあたる0.03%の配合でも、市販品に比べ7〜8倍もC₀Q₁₀の吸収量が高まることがわかった。また、美肌にはR体だけが必要となるαーリポ酸だが、これもγCD

に包接することで安定化し肌に取り込みやすくなった。同社は、これら素材を配合した美容液の製品化を計画、子会社コサナ(本社・東京都中央区)を活用して市場評価に入った。このマーケティング活動を生かし、化粧品メーカーとの新たなパートナーシップを築いていく。